

I. 導入

おはようございます。コヘレトの言葉 3:11 で、著者は創造主なる神の御業についてこう教えています。「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。」この箇所は、神の御業を完全に理解することはできないと教えると同時に、時が来れば神がすべてをよきにはかられることを信頼するようにと私たちに教えています。また、人間の不思議な行動パターンについても説明します。その行動パターンとは、どの文化にも死者を弔う風習があることです。

土地や文化が違って、人は何らかの儀式や典礼を行い、墓に埋葬することで、家族や友人、隣人の死を覚えます。葬儀のしきたりや墓の形状はさまざまですが、人が死んだ時、そしてその後も、その死を弔う習慣というものはどの文化にも存在します。これはなぜでしょう。神が「永遠を思う心を人に与えられる」からでしょう。私たちには、永遠を思う心があるのです。神がそれを与えられました。そういうわけで、私たちはこの世の 70~80 年の人生がすべてではないと信じずにはいられません。心の奥底で、死んだ人たちもどこかで生きているに違いないと感じているからです。

使徒 26 章で、使徒パウロはアグリッパ王の前でこう尋ねました。(使徒 26:8)「神が死者を復活させてくださるといふことを、あなたがたはなぜ信じ難いとお考えになるのでしょうか。」ここでパウロは、イエス・キリストの復活について語っています。しかし、この問いはもっと広範に当てはめて考えることができます。地上のはかない人生以上に何かがあると感じているなら、神が死者を復活させてくださるとは信じがたいと思うのはなぜでしょうか。時空の創造主であるお方は、死者を復活させる力もあるはずで、そして、そのような望みを私たちの心に与えられました。事実、復活は単なる希望ではなく、約束なのです。

イザヤ書 26:19 にはこうあります。「あなたの死者が命を得／わたしのしかばねが立ち上がりますように。塵の中に住まう者よ、目を覚ませ、喜び歌え。あなたの送られる露は光の露。あなたは死霊の地にそれを降らせられます。」これは直接的な表現でわかりやすいと思います。この預言にはあいまいさはありません。復活はあると神は約束されました。そして、神は常に約束を守られます。

今日の聖書箇所では、パウロはイエスの復活が預言の成就であることを指摘し、罪の赦しと永遠の命の賜物が実在するものであると断言します。私たちの学びがどこまで進んだか思い出してみよう。パウロは第一次宣教旅行に出かけました。使徒 13 章では、ピシディア州のアンティオキアの会堂でメッセージを語りました。この地図に示された場所は、現在のトルコの西部にあたります。この絵画からも、当時の様子が想像できるでしょう。では、使徒 13:32-39 をお読みしましょう。



II. 聖書朗読 (使徒 13:32-39, 新共同訳)

13:32 わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。 13:33 つまり、神はイエスを復活させて、わたしたち子孫のためにその約束を果たしてくださったのです。それは詩編の第二編にも、／『あなたはわたしの子、／わたし

は今日あなたを産んだ』／と書いてあるとおりです。 13:34 また、イエスを死者の中から復活させ、もはや朽ち果てることがないようになされたことについては、／『わたしは、ダビデに約束した／聖なる、確かな祝福をあなたたちに与える』／と言っておられます。

13:35 ですから、ほかの個所にも、／『あなたは、あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしてはおかれない』／と言われていました。 13:36 ダビデは、彼の時代に神の計画に仕えた後、眠りについて、祖先の列に加えられ、朽ち果てました。 13:37 しかし、神が復活させたこの方は、朽ち果てることがなかったのです。 13:38 だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、 13:39 信じる者は皆、この方によって義とされるのです。

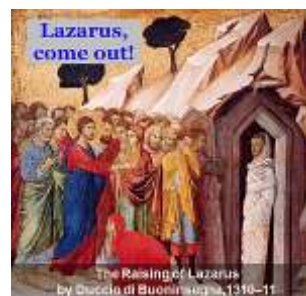
III. 教え

パウロは、イエス・キリストが死からよみがえったこと、そしてイエスの復活は数百年前に語られた預言の成就であることを大胆に語りました。使徒 13:32-33a「わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。 13:33 つまり、神はイエスを復活させて、」



続いてパウロは、ダビデ王に与えられた約束がイエスの復活によって成就したことも説明しました。ダビデ王は死んで埋葬され、その遺体は朽ちました。しかし、ダビデの子孫であるイエスは、墓の中に留まっていませんでした。このお方は新しい命をもって復活なさいました。詩篇 16 篇で、ダビデはこう記しています。「 16:9 わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。 16:10 あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず」しかし、これは彼自身のことではありませんでした。ダビデは、来たるべきメシアの観点から預言的にこの言葉を語ったのです。

パウロは、イエスの復活は福音だと宣言しています。これは神の約束と聖書の預言の成就です。また、イエスが救い主であり、世の罪を取り去るために来てくださった神の小羊であるという決定的な証拠です。ところで、イエスの復活は、単に肉体が元通りに復活したことを指しているのではないことに、私たちは気付かなければなりません。これは、単なる肉体の復活以上のもの、つまり永遠の命に至る復活なのです。



イエスがラザロに墓から出てくるようにと呼ばれた時、ラザロが死んですでに 4 日間経過していました。しかし、イエスの命令は覆されませんでした。ラザロは埋葬用の布にくるまったまま、起きて出てきました。これはイエスの力と愛を示すすばらしい奇跡でした。しかし、ラザロの復活は永遠の命に至る復活ではありませんでした。

伝承によると、ラザロは復活から 30 年生き、もう一度死んで埋葬されました。キプロス島ラルカナにある聖ラザロ教会は、ラザロのふたつめの墓の上に建てられたと言われています。ラザロの復活は、この世の人生を 30 年引き延ばす復活でした。しかし、イエスが再臨される終わりの日には、ラザロはイエスを信じるすべての人々とともに墓からよみがえり、天国での永遠の命へと移されます。



その偉大なる日には、ラザロは永遠の命へとよみがえらせ、復活の体をいただきます。コリント第一 15:42-43 はこれについてこう語っています。「 15:42 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、 15:43 蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。」

その日には、ラザロは復活の体をいただきます。しかし、イエスはすでに永遠の命へと復活されました。そして、すでに復活の体をお持ちです。イエスは永遠までも生きておられるお方です。イエスの復活は福音です。というのも、イエスが永遠に生きて、私たちのようにイエスに属する人々、つまりご自身の教会をいつでもどこでも見守ることがおできになるからです。イエスは、ご自身を信じる者すべてにすばらしい無償の贈り物を差し出されます。

イエスは、罪の赦しと永遠の命を私たちに差し出されます。それは、恵みによって与えられ、信仰をもって受け取るものです。私たちが信じて、すぐに復活の体を頂くわけではありません。しかし、イエスを受け入れた瞬間に、罪の赦しや神との平和、そして神の家族の一員となる特権をいただきます。そして、ラザロが復活の体をいただく終わりの日には、私たちもそこにいて、復活の体をいただくという約束も与えられます。その偉大なる日が来る前に死んでしまったとしても、霊はイエスとともに生き、今ラザロがそうであるように、天国で主の臨在を味わうこととなるでしょう。



パウロは、**使徒 13:38-39** で続けてこう言います。「**13:38** だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、**13:39** 信じる者は皆、この方によって義とされるのです。」人は皆、罪を犯します。神の目に間違ったことをしてしまいます。ですから、罪の赦しが必要です。私たちには、清められて神との交わりに戻らせていただく必要があります。モーセの律法は完全な赦しをもたらしませんでした。律法のもとでは、罪をおおうために繰り返しいけにえがささげられましたが、完全な赦しは手の届かないものでした。けれども、イエスを信じる信仰をとおして、私たちはすべての罪を赦す完全な真の赦しをいただきます。それは、私たちのために十字架上で成し遂げられたイエスの御業によるものです。これこそ、すばらしい福音です。

IV. 結び

この福音に私たちはどう応答するでしょうか。私たち一人ひとりが、そして家族や友人、隣人が皆、イエスを受け入れるようにと祈ります。イエスを受け入れて、罪の赦しを神に感謝し、無償で与えられる救いの賜物を喜びましょう。イエスを信じる信仰をとおして、私たちは新しい命をいただきます。それは、神との交わりにある豊かな命であり、永遠に神の家族となる命です。新しい命、永遠の命、そして、復活の体の約束、これこそ福音です。

今日は最後に、ペトロ**第一 1:3-4**のみことばをお読みして終わらしましょう。「**1:3** わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、**1:4** また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しばまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。」

祈りましょう。

V. 祈り